

鳥栖市教育プラン

～ 鳥栖スタイル ～ **挨拶・掃除・食生活**

ふるさとを愛し、ふるさに誇りを持ち、よりよい社会の形成者としての
資質能力をもった「鳥栖っ子」

鳥栖中校区小中一貫教育 研究主題

心豊かで、たくましく、自ら学ぶ“鳥栖っ子”の育成

【学校教育目標】

豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる児童の育成

めざす学校の姿

【夢ふくらむ鳥栖北小！ 笑顔であいさつ・笑顔でありがとう】

すべての子どもが希望をもち夢の実現をめざす、「明日の登校が待ち遠しい学校」に

めざす子ども像

感性を磨く
やさしく

- ・「ありがとう」が言える子
- ・「笑顔」で挨拶ができる子
- ・マナーを身に付けた子
- ・みんなと仲良くできる子
- ・協力して活動できる子
- ・動植物をかわいがる子

知性を育てる
かしこく

- ・話をしっかり聞くことができる子
- ・考えることを楽しむ子
- ・自分の考えを表現できる子
- ・読書習慣が身に付いた子
- ・家庭学習をがんばる子

耐性を鍛える
たくましく

- ・仲良く遊び、体を鍛える子
- ・進んで働くことのできる子
- ・最後まで頑張る子
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身に付いた子
- ・ふるさと鳥栖を愛する子

めざす教師像

- ◇ 「教材に関する幅広い知識」と「豊富な指導技術」を持った教師
- ◇ 子どものよさを見つける、「温かく鋭いアンテナ」を持った教師
- ◇ 自らの職務に対する意欲と使命感にあふれ、研鑽をつむ教師
- ◇ 保護者、地域に感謝し、感謝される教師

【 令和7年度の重点目標 】

視点	内容	具体的方策
視点①	子どもの心 を鍛える	○ 夢や希望をもち、自分で考え、正しく行動する児童の育成 ○ 「笑顔であいさつ」、「笑顔でありがとう」の推進 ○ 互いの人権を尊重する人権意識の高揚 ○ 「特別の教科 道徳」の充実と「道徳的实践力」の向上 ○ 人や自然とふれ合う「体験活動」を通した、豊かな心の育成
視点②	子どもの学び を鍛える	○ 「学習習慣」と「学習規律」の定着、返事の徹底 ○ 「思考力・判断力・表現力の向上」をめざした、子どもたちが「熱中」できる授業の充実とタブレット PC の活用とリモートの授業の取組 ○ <u>考えを表現する活動を中心に据えた授業実践</u> ○ 「家庭学習」や学校・家庭での「読書」の習慣化と充実
視点③	子どもの体 を鍛える	○ 運動習慣の育成をめざした「外遊び」の奨励 ○ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進による基本的生活習慣の定着 ○ 「栄養のバランスを考えて給食を食べる」意識と態度の育成 ○ 子どもの体力向上をめざした「体育の授業」の充実
視点④	教師力を 磨く	○ 子どもの変化を見逃さない児童理解力の向上 ○ <u>「子どもファースト」を意識した授業づくりと学級経営</u> ○ 「認め合い、励まし合う学級」をめざした「学級経営力」の向上 ○ 特別支援教育や教育相談の研修をとおした専門的知識・技能の向上 ○ タブレット PC を活用及び、リモートでの授業力向上
視点⑤	共に育てる	○ コミュニティ・スクールの実践(新花いっぱい運動、地域交流ものづくり、北地区文化祭交流)をとおした、地域連携による「魅力ある学校づくり」の推進 ○ 義務教育9年間を見通した連続性のある小中一貫教育の推進 ○ 家庭と連携した「児童理解の推進」と、「基本的な生活・学習習慣の定着」 ○ 小1プロブレム対応や個に応じた指導の充実を図る「幼保小連携の充実」 ○ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の実現をめざした、保護者や地域との連携による「働き方改革」の推進

【重点目標１】 子供の心を鍛える

（１）夢や希望をもつ児童

将来の夢や具体的な目標もつことで、目標の実現に向けて粘り強く努力できるたくましさや、自分のことだけでなく相手を思いやる優しさが育つと考える。教師はその夢や目標をもつきっかけを作り出すこと、さらに、見つけた夢や希望を膨らませていくことが重要である。

また、日々変化し多くの情報の中で生き抜いていくためには、自分でしっかりと考え、多くの情報から適切なものを選択し、その情報を基に正しく行動できる児童を育成する必要がある。

（２）「笑顔であいさつ」、「笑顔でありがとう」の推進

挨拶については、鳥栖市教育プランでも目標として挙げられている。本校では、「笑顔で挨拶をしよう」と、児童に分かりやすい行動目標として示している。また、コミュニティー・スクールとしての取組でも「笑顔であいさつ」「笑顔でありがとう」を地域ぐるみで、具体的な目標とする。

（３）人権意識の高揚

令和４年度から、人権・同和教育の地域研究指定を受け、これまでの人権・同和教育の実践に学びながら、児童生徒の発達段階に即して、各教科、特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間等のそれぞれの特質に応じて学校の教育活動全体を通じて、人権に関する知的理解と人権尊重の意識を高め、人権感覚の涵養を図る教育を推進していく。

- ①学び合いを通して、お互いを高め合う授業づくり
- ②お互いの良さを認め合う仲間づくり
- ③差別に気づき、差別をなくしていく児童生徒の育成
- ④児童生徒の人権に関する知的理解と人権尊重の意識、人権感覚を高める実践に取り組む。

【重点目標２】 子供の学びを鍛える

（１）学力向上

標準学力調査の結果、国語、算数ともに目標値を上回っている。国語も算数も積み上げていく教科であるため、これまでの指導の成果が出てきていると思われる。基礎学力は確実に定着してきている。今後は児童自らが課題を見つけ主体的に取り組む、解決していく力をつけていく必要がある。

令和６年度 標準学力調査 ４月実施

正答率	５年時	
	国	算
本校平均	68.2	64.2
目標値	64.4	63.3

（２）GIGA スクール対応

全児童がタブレットＰＣを活用できるように以下の方策を取る。

- ・発達段階に応じた活用方法を探り、全員の児童がタブレットＰＣを使用できるようにする。
- ・タブレットＰＣを活用した授業を推進する。また、児童も教師もリモートでの授業に慣れる。
- ・長期欠席の児童がタブレットで教室の授業を視聴しながら、家庭で学習できるようにする。

（３）読書週間の定着と家庭への啓蒙

読書は、「知識量が圧倒的に増える」「判断力が身につく」「想像力が向上する」「語彙力が増す」「コミュニケーション能力が向上する」というよさがあると言われている。そのため、学校だけでなく、家庭においても読書の習慣を児童に身に付けさせるために、保護者に啓蒙していく必要がある。図書館だよりや学年だより等の様々な手立てで広報していく。

【重点目標３】 子供の体を鍛える

鳥栖北小の児童は、外で元気に遊ぶ子がとても多い。運動習慣の育成の面からも、さらに推進していきたい。運動場では、上級生が１、２年生と遊んでいる姿をよく見かける。社会性育成の面からも、さらに奨励していくようにしたい。

また、教頭・主幹教諭・事務室を中心に、全職員で熱中症指数や光化学オキシダントなどの指数をこまめにチェックし、対応が必要な際には迅速に児童への指示を行うようにする。また、休み時間等は教師が運動場を巡回するようにし、安全で安心して外遊びができるようにしている。

【重点目標 4】 教師力を磨く

(1) 児童理解力の向上

教師力の根本は「児童理解力」である。学習面、生活面の両面において、子どものわずかな変化も見逃さない観察力、子どもの状況を把握する理解力を身に付けてこそ、教師力は向上していく。日々の授業はもちろん、学校生活全般において、「児童理解力」を向上させるため、機を捉えて声をかけ合い、互いに意識しながら向上し合う職員集団を作っていきたい。

その上で教師主導ではなく、子どもが主体となる授業づくりや子どもの実態に合わせた学級経営を目指して全職員で取り組んでいきたい。

(2) 特別支援教育や教育相談の研修をととした専門的知識・技能の向上

17 学級 (R6 から 2 学級増) の特別支援学級に対応するため、引き続き特別支援教育コーディネーターを、支援学級担当 2 名と通常学級担当の 1 名体制とする。さらに、支援学級を低学年、A、B の 3 グループに分け、それぞれにグループリーダーを配置する。これにより、グループで連携協力して指導にあたるのが可能となり、経験の浅い教員も特別支援学級担任がしやすい組織とする。

【重点目標 5】 共に育てる

(1) コミュニティ・スクールの取組を中心に、地域との連携と地域に根ざした「魅力ある学校づくり」推進

令和 2 年度より、コミュニティ・スクールの指定を受け、学校運営協議会が設置された。学校運営に地域の声を積極的に生かし、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくとともに、よりよい方向へ学校運営を進めていく。

3 つの【あ】、「あいさつ」「ありがとう」「安全」を柱とし、「安全」では地域の皆様に毎日の交通指導や見守り活動、こども 110 番（不審者対応）など、ご助力いただいている。コミュニティ・スクールの交流事業として以下の 3 点を計画する。

① 新花いっぱい運動

見守り隊や交通指導員さん等の地域の皆様に「ありがとう(感謝)」の気持ちを伝えるために、新花いっぱい運動として、花の寄せ植え(児童、保護者、地域)を行い、花の寄せ植えの配布を保護者と児童で行う。

② 地域交流ものづくり

PTA と鳥栖北地区まち協と共催で「凧づくり」「もちつき」を行う。

③ 鳥栖北地区文化祭交流

3 月の鳥栖北地区文化祭で、作品の出品等積極的に参加する。

その他、校外学習や体験学習など、地域の方々との交流の機会を機を捉えて積極的に作っていく。

また、コミュニティ・スクールの認知度を上げるため、学校ホームページや学校だより等を通して積極的に取り組み状況を発信していきたい。

(2) 小中一貫教育研究の推進

義務教育 9 年間で子どもを育てる意識を鳥栖中校区 3 校で共有し、情報交換を密にしながら連続性のある小中一貫教育を推進していく。

(3) 家庭と連携した「児童理解の推進」と、「基本的な生活・学習習慣の定着」

配慮を要する児童の増加や保護者の意識の変化とともに、家庭環境の複雑化が進んでいる。子供たちの状況を正しく理解するためには、学校での児童観察だけでは不可能な時代となっており、家庭や地域と連携した児童理解の取り組みが必須となっている。

基本的な学習習慣や生活習慣の定着を目指す指導の土台となる、しっかりした児童理解のため、家庭や地域との情報共有を進めていきたい。